

平成22年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度 (%)	状況
協議会	2,052,000	宮古崎	0	20%	波当りが強く、ハナヤサイサンゴ属が優占。一部にサンゴ食巻貝の被害がみられたが、概ね健全な状態が保たれている。白化や食痕なし。
		宮古崎東	0	10%	以前の食害により礁斜面下部は壊滅状態。上部に卓状ミドリイシ類が残る。直径20～30cmの小型群体が多い。白化や食痕はみられなかった。
		デン浜	0	20%	以前の食害により礁斜面下部は壊滅状態。浜中央の水道付近に卓状ミドリイシ類が残る。直径50cmほどに成長している。新規加入は少ない。
		知名瀬大浜	0	5%	以前の食害により礁斜面のサンゴは壊滅状態であったが、ミドリイシ属の小型群体が多く見られる。場所により1㎡あたり10群体以上の群体がみられる。
		大浜	1	5%	礁縁にはミドリイシ属の小型群体(20cmほど)が多い。礁斜面でも数cmほどのミドリイシ属の小型群体が増えてきているが、食痕が数カ所のみみられた。
		摺子崎	0	10%	以前の食害により礁斜面は全滅状態。礁縁はハナヤサイサンゴ属が優占しているが、ミドリイシ属の小型群体(20cmほど)も多い。食痕も無く順調に回復。
		赤崎	0	5%未満	以前の白化現象により壊滅状態。新規加入のミドリイシ属がやや増加傾向。10～20cm程度の小型群体もまばらにみられる。
		名瀬湾立神	0	5%未満	以前の白化現象により卓状ミドリイシ群落は壊滅。新規加入のミドリイシ属がやや増加傾向。小型群体もまばらにみられる。直径は10cm程度。
		山羊島	0	20%	ハマサンゴ属が優占。大型のハマサンゴ群体が点在し、枝状のユビダハマサンゴ群落も広がる。ミドリイシ属は、ほとんど見られない。サンゴは回復傾向。
		キョンナ	0	5%未満	白化現象で壊滅後、被度10%まで回復してきたが、2007年にオニヒデにより再び壊滅。ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる。
		有良	0	5%未満	以前に大量発生したオニヒデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる。新規加入のサンゴは少ない。
		芦花部	0	5%未満	以前に大量発生したオニヒデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる。付着藻類が多く、新規加入のサンゴは少ない。
		摺古崎礁池	0	10%	枝状のクダモノサンゴ、葉状のチジウスコモンサンゴの被度は年々低下している。塊状のナカサンゴの小群落が見られる。ミドリイシ属の新規加入なし。
		摺古崎礁原	0	15%	卓状ミドリイシ属が優占。以前、オニヒデのリーフ内への進入を阻止し、サンゴを保全できた海域。40cmほどのミドリイシも散在。新規加入のサンゴも多く、多様性も高い。
		大浜礁池	0	5%未満	以前の白化現象で死滅した枝状ミドリイシ群落のサンゴ礁上にミドリイシ属の小型群体が、ごく少数見られる。新規加入のサンゴは非常に少ない。
		大浜礁原	0	5%未満	オニヒデにより礁斜面のサンゴはほぼ全滅。礁原にはミドリイシ属の小型群体が生存している。20cmほどの群体が多い。白化や食痕はみられない。
		崎原東	0	70%	卓状のクダモノミドリイシが優占。礁縁上部は健全なサンゴ群集に覆われ、名瀬海域では、生サンゴ被度が一番高い地点。白化や食痕もほとんどない。
		崎原南	0	30%	枝状ミドリイシ群落の回復が進んでいる。枝状のスキキミドリイシや葉状のチジウスコモンサンゴが多い。塊状アオサンゴやハマサンゴも点在している。
		仲干瀬崎(小湊南)	0	40%	被度40%。礁縁にはハナヤサイサンゴ群集が一面に広がり、礁斜面上部ではウスエダミドリイシ等のミドリイシ属小型群体も増加している。白化や食痕はない。
笠利地区	赤木名	1	20%	塊状ハマサンゴ群落。透視度も悪く内湾性の環境だが、30cm程度の卓状ミドリイシもみられる。おおむね健全な状態。30cmのオニヒデ1個体を確認駆除。	
	前肥田	0	70%	エダハマサンゴ群落(50m×100m)が広がる。内湾で濁りもあるが、健全な状態。白化や食痕もみられない。ミドリイシ属はほとんどみられない。	
	赤木名立神	0	5%未満	以前の白化現象によってサンゴは壊滅。卓状および枝状ミドリイシ属の骨格が残る。10cm程度の小型ミドリイシ属もまばらにみられる。	
	蒲生崎入口	0	20%	以前の白化現象によりサンゴは壊滅。礁縁付近には10～20cmのミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる。	
	蒲生崎	0	10%	蒲生崎周辺でサンゴの新規加入が多い海域。20cm程度のミドリイシ属のサンゴが散見できる。	
	佐仁	0	20%	回復が特に順調な海域。30～40cmの卓状ミドリイシ類もみられる。礁池内の回復も順調で、枝状および卓状のミドリイシ類も散見できる。	
	用海岸	0	40%	回復が特に良好。卓状・枝状のミドリイシ属の小型群体が多い。南側の縁脚にはウスエダミドリイシの小型群体、北側にはアオサンゴが多い。種多様性も高い。	
	あやまる岬	0	20%	礁斜面がほぼ垂直に落ち込む地形。礁縁にのみ卓状ミドリイシがみられる。付着藻類が多く新規加入のミドリイシ類は少ないが、サンゴは健全な状態。	
	節田	0	50%	礁縁から礁斜面にかけて、クダモノミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落も広がる。1.5mほどの大型群体もある。新規加入のミドリイシ類も多く、順調に回復。	
	明神崎	0	20%	波当りが強い礁縁にハナヤサイサンゴ類の小型群体が散見できる。水路部には1mほどの卓状ミドリイシ類もみられる。	
住用地区	用安	0	10%	20cmほどのミドリイシ属の小型群体が多い。付着藻類が多くみられ、周辺海域と比べると新規加入のサンゴは少ない。	
	神の子	0	30%	礁池内に枝状および葉状のサンゴ群落も広がる。食害や台風による破損により、年々被度は低下している。ミドリイシ属の新規加入は少ない。	
	高浜東	0	60	卓状クダモノミドリイシが優占している。枝状のヒメツツミドリイシ小群落も点在している。状態は良好で、順調に回復している。	
	高浜	0	40	30～40cmの卓状ミドリイシの小型群落が高密度に見られる。状態は良好で、順調に回復している。	
	鳩ノ崎	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、死滅したサンゴ骨格が残る。新規加入のサンゴも少ない。	
	トビラ	0	40	塊状及び枝状ハマサンゴ類が優先し、枝状ミドリイシが点在。葉状のリュウキュウキツカサンゴ小群落も見られ、サンゴの多様性が高い。	
	スタルトビラ	0	10	礁縁に卓状ミドリイシの小群体が見られる。波あたりが強く骨格の固い種のサンゴが多い。	
和瀬	0	60	枝状のミドリイシ小群落が点在する。葉状のサンゴや塊状のハマサンゴ、卓状のミドリイシも見られ、多様性が高く、新規加入も多い。		

平成22年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
大和村		今里沖	0	5%未満	壊滅状態で、骨格が残る。新規加入のミドリイシ属のサンゴも少ない。ハナヤサイサンゴが、まばらに見られる程度。豪雨災害の影響は無い。
		今里小浜	0	5%未満	ハナヤサイサンゴやハナヤサイ、サンカミドリイシ等がまばらに見られる。付着藻類が多く、新規加入のミドリイシ属は少ない。背後の崖が小規模に崩れているが影響は無し。
		名音沖	0	5%未満	10cm程度のミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴのみみられる。1mあたり数群体程度。豪雨災害による影響は無く、海底への泥土の堆積もみられない。
		名音隧道	0	5%未満	壊滅状態で、骨格が残る。5~10cm程度のミドリイシ属の小型群体が見られる。豪雨災害による影響も無く、海底への泥土の堆積もみられない。
		ヒエン浜(中央)	0	10%	局地的に、クシハダミドリイシやヤスミドリイシ、オヤユミドリイシ等のミドリイシ属の大型群体のみみられる。透視度も15m以上あり、豪雨災害による影響はみられなかった。
		ヒエン浜(戸円側)	0	10%	局地的に、クシハダミドリイシやヤスミドリイシ等のミドリイシ属の大型群体のみみられる。キウメイ科のサンゴも点在し、多様性が高い。新規加入のミドリイシ属もみられる。
		大山崎西浜	0	10%	20~30cmのミドリイシ属の小型群体が多く見られる。回復が早く、新規加入数も多い。キウメイ科のサンゴも点在し、多様性も高い。豪雨災害の影響はみられなかった。
		トルス	0	5%未満	壊滅状態で、新規加入のミドリイシ属は少なく、まばらに見られる程度。小規模なリーフだが、礁斜面には、死滅した大型の卓状ミドリイシ属の骨格が残る。
		マッソ	0	5%未満	壊滅状態で、10cm程度のミドリイシ属の小型群体が、まばらに見られる。付着藻類が多く、新規加入のサンゴは少ない。背後地で小規模な崖崩れがあるが影響はない。
		石川	0	5%未満	壊滅状態で、ハナヤサイサンゴや新規加入のミドリイシ属の小型群体が、まばらにみられる。死滅した大型卓状ミドリイシ群落の骨格が残る。
		親川	0	5%未満	壊滅状態で、大型の卓状群体の骨格が残る。10cm程度のミドリイシ属の小型群体や、ハナヤサイサンゴが、まばらに見られる。
		宮古崎	0	5%未満	10cm程度のミドリイシ属の小型群体が多くみられる。多いところでは1mあたり5群体。順調に回復してきている。
		志戸勘トンネルコモリ	0	10%	礁原上にある直径50m、水深10mのすりばち状の窪み(コモリ)。枝状ミドリイシ属や枝状アサゴトキ属の小群落が点在している。
		志戸勘トンネル礁池	0	20%	コモリから陸側に広がる礁原では、枝状ミドリイシの小型群体も多くみられ、数メートルに広がる群落も点在している。礁池内では、順調にサンゴが回復している。
		ヒエン浜(礁池)	0	5%未満	海底は、サンゴ礁が堆積し、塊状ハマサンゴが点在している。ミドリイシ属のサンゴは、ほとんどみられない。シラベウコが多くみられた。豪雨による影響はみられなかった。
大棚	0	5%未満	サンゴは壊滅状態であるが、10cm程度のミドリイシ属の小型群体のみみられる。多い所では、1mあたり5群体以上。新規加入のサンゴも多い。豪雨による影響はみられなかった。		
国直北	0	5%未満	国直北側にある砂浜沖のサンゴ礁。サンゴは壊滅状態。死滅したサンゴの骨格が残る。回復は遅く、5~10cmのミドリイシ属小型群体が、まばらにみられる。		
国直	0	5%未満	国直集落前面に広がるサンゴ礁。サンゴは壊滅状態。死滅したサンゴの骨格が残る。回復は遅く、5~10cmのミドリイシ属小型群体が、まばらにみられる。		
協議会	2,052,000 (再掲)	曾津高崎東	0	70%	大型の卓状ミドリイシ群体が一面に広がっている。順調に回復しており、サンゴ幼生の供給源としても、周辺海域の回復を促す重要なサンゴ群集である。
		外浜	0	40%	礁縁では被度が高くなり、大型卓状ミドリイシ群体もみられる。新規加入のミドリイシ属も多い。礁斜面では、新規加入のサンゴは少なく被度も低い。
		屋鈍崎	0	5%未満	サンゴが壊滅した礁斜面上部に、ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体がまばらに見られる。1mあたり1群体程度。20cm程度のサンゴが多い。サンゴ岩表面は付着藻類の覆われている。
		屋鈍	0	5%未満	礁斜面上部に、ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体がまばらに見られる。数mに群体程度で加入量は少ない。20cm程度のサンゴが多い。サンゴ岩表面は付着藻類の覆われている。
		タエン崎	0	5%未満	礁斜面上部に、ミドリイシ属のサンゴが定着してきている。10cm程度の卓状およびコリンボース状のサンゴが見られる。1mあたり1群体程度。
		タエン	0	10%	ミドリイシ属やキウメイ類も多く、多様性に富む。卓状ミドリイシは、20~30cmが多い。高さ10cmほどの樹枝状ミドリイシ類もみられる。シラベウコも多い。
		枝手久島北	0	70%	サンゴが順調に回復している。クシハダミドリイシや大型の卓状ミドリイシ群体が多く、新規加入のミドリイシ属も多い。食痕や白化なく、健全なサンゴ群集がある。
		倉木崎	0	40%	小型ミドリイシ群体が散見できる。礁縁付近には、大型のミドリイシ群体も少数みられる。
		船越海岸	0	70%	大型の卓状ミドリイシ群体が多く、新規加入のミドリイシ属のサンゴも多い。回復は順調。痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集がある。透視度も高く、環境は良好。
龍郷町		円集落前	0	5%未満	ミドリイシ属は数m間隔で見られた。ソフトコーラル類優占。昨年と同様で大きな変化は見られない。
		嘉渡(カガハナ)	0	5%未満	昨年同様、新規加入のミドリイシ属は数m間隔で見られるが、ブダイによる食害が、増加してない。ソフトコーラル類優占。
		今井崎	1	30%	本地点は比較的サンゴが多く生存している。ダイウサンゴ・オオハナガタサンゴの大型群体あり。10cmくらいのヒトデ。
		ハナゴイ(クジラ浜沖)	0	30%	昨年と変化なし。ハマサンゴ属が広がる。ミドリイシ属の新規加入は少ない。
		赤尾木湾(湾中央部)	0	20%	1m以上のミドリイシ属が所とところ残っている。枝状ミドリイシ属も復活してきている。オニヒトデによる食害痕あった。
		赤尾木湾・白浦	0	15%	昨年より、死滅しているミドリイシ属が見られたが上部に新規加入が付着しているのが見れた。豪雨の影響か
		戸口・アウンアーチ	0	30%	昨年より、ミドリイシ属の成長がある様に見受けられた。ハナヤサイサンゴ類優占は変わらない。
		戸口・アウン(右側)	0	20%	新規加入のミドリイシ属が昨年より多く見られ、かつ成長しているのが見られた。
		戸口ウマズバナ	0	20%	20cm程度のミドリイシ属も昨年より増えている様に見受けられた。浅場の岩礁部のミドリイシ属は、順調に成長している。
		戸口(落水)	0	20%	昨年より、アウン同様に、成長が見られた。サンゴの種類も同様である。
		久場(水深4m以浅)	0	30→5%未満	ハマサンゴ類が優占するサンゴ群集(被度30%)はほぼ全滅。湾奥で湾口が浅く狭いので、泥水が長期間滞留していた可能性がある。
		久場(深部)	0	80→40%	水深5~6mのエダハマサンゴ群落では白化した群体が部分死滅。水深7~20mの斜面の内湾性センベイサンゴ群落は、部分死滅している群体が多く、被度は半減。
		龍郷沖龍郷郵便局沖	0	10%	新規加入のミドリイシ属が岩礁に見られた。以前より多く見受けられた。昨年、任意に調査。
赤尾木湾・学校下	0	10%	ミドリイシ族に死滅が見られた。豪雨の影響と見られる。ハマサンゴ属は、昨年同様に見られた。		

平成22年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
瀬戸内町	262,000	実久	0	0-24	直径3～5cmのサンゴが多く、回復の兆しが見られる。
		デリキヨマ崎	0	50-74	サンゴの状況は、昨年と変わらず。白化現象が見受けられた。
		黒崎	0	0-24	サンゴの死骸が多く、再生の兆しは見られない。
		安脚場	0	50-74	小さなサンゴが多く見られた。
喜界町	390,000	花良治	0	25-49	オニヒトデの食痕は見られない。
		池治	0	5-24	オニヒトデの食痕は見られない。
		塩道	0	5-24	オニヒトデの食痕は見られない。
徳之島町	150,000	睦	4	75-100	
		母間	4	75-100	
天城町	344,000	松原漁港沖	0	0-24	昨年度と比較し余り変化なし。回復の兆しは見られない。
		浅間沖	0	0-24	潮通りの良い場所では、サンゴの生育が良かった。
伊仙町	166,900	喜念崎	12	50-74	
和泊町	522,000	西原	0	50-74	
		出花	0	50-74	
		ワンジョ	0	50-74	レイシガイが確認された。
		イダシチ	0	50-74	レイシガイが確認された。
知名町	170,000	屋子母	0	5%未満	テトラにサンゴの定着が多く見られた。
		屋者	0	5%未満	ミドリシサンゴが半分死んでいる。
		沖泊	0	5-24	浅場の被服サンゴがレイシガイの食害を受けている。
与論町	532,000	供利沖	0	0-24	食害痕があるサンゴが多く見られた。浅場・深場とも新規加入のサンゴが見られるが、オニヒトデによる食害を受けているように思われる。
		皆田沖	0	25-49	25%に近い被度である。浅場は白化は見られない。深場は原因不明であるが、白化あり。
		茶花沖(北側)	0	25-49	浅場はレイシガイによる食害あり。深場は白化は見られない。
		茶花沖(南側)	0	25-49	食害痕があるサンゴが見られた。浅場は2年目ほどのハヤサイサンゴが多く見られた。深場は被度が50～74%であるが、海藻類が増えている。
		赤崎沖(A)	0	0-24	オニヒトデ、レイシ貝は発見できなかったが、食害にあっているサンゴが見られた。
		赤崎沖(B)	0	0-24	食害痕があるサンゴが見られた。浅場は被度が30%でテーブルサンゴの群生が見られた。深場は被度が10%であるが、水中環境は良い。
合計	6,593,800				